

ボランティア養成講座「読み聞かせ」を開催しました

8日(月)に上記の講座を開催しました。今回は講師に元KK Tアナウンサーの本橋 馨さんをお招きして開催しました。例年30名前後の参加者ですが、今回は50名を超える参加者がありました。

最初に読み聞かせ体験の場を設けて、3名の方に読み聞かせをしていただきました。無理を言ってお引き受けいただきましたが、日頃から読み聞かせをされておられるだけあって、上手な読み聞かせをされていました。講師の本橋さんからもそれぞれの方にお褒めの言葉をいただきました。

また、その読み聞かせに真剣に聴き入る参加者の様子に日頃より読み聞かせへの関心の高さを強く感じることができました。

参加されたほとんどの方が地元の小中学校で、日頃読み聞かせをされておられます。宇土市内の小中学校にはすべてボランティアの読み聞かせグループが存在します。したがって、読書活動について子供たちはとても恵まれた環境にいます。

読み聞かせ体験の後に本橋さんの講話がありました。要注意ワードとして、「読み聞かせは、教えることをしない。」こと。絵本と教科書は違う。ことを話されました。その後、絵本の持ち方やめくり方について助言をいただきました。また、子供の目線と本の位置、めくるタイミングの大切さについてもご講話いただきました。

そして、最後に「間」を取ることの大切さを力説されました。

具体的には、「絵を見せる→間を取る→文章を読む」を基本のパターンとしてほしいとお話しされました。

その後の質疑応答でも多くの方から質問や意見をいただくことで今後の読み聞かせの手法について共有することができました。

全ての参加者にとって充実感あふれる講座となりました。



熊本県教育委員会社会教育課の事業、「親の学び」講座の進行役を務めました。

今回は宇土幼稚園の保護者の方々を対象とした子育て講座でした。これまでの研修方法とは違い、保護者が主体的に参加する型の研修です。したがって、進行役は話し合いのテーマを提供し、参加者に活発な話し合いを促すことが主な仕事です。したがって、「親の学び」ではなく「親の学び合い」講座が相応しいかもしれません。

まず、参加者の緊張を解すためのアイスブレイキングから始めます。5人組のグループでゲーム形式で2つの活動を通して短時間で打ち解けていただきました。今回のテーマは、わが家の家庭教育一か条でした。

こちらから考えを出し合う話題を提供すると、直ぐさま積極的なグループ内での話し合いが始まります。とても雰囲気の良い講座でした。持ち時間の40分があっという間に終わってしまいました。もう少し一緒に勉強したいと後ろ髪(白髪ですが)を引かれながらのお開きとなりました。話す側と聞く側がウィンウィンな関係が会の成立には欠かすことのできない大切なことだと再確認することができました。同様に地域学校協働活動においても学校と地域ボランティアがウィンウィンな関係で活動できることがとても大切なことです。

今回の講座は、教師としての現職時を思い出させていただいたとても居心地の良い充実した場となったことに感謝したいと思います。今年度は、あと2つの講座を担当する予定です。参加者のみならず私自身も担当させていただいて良かったと思える講座作りに専念せねばと覚悟を決めた次第です。

📢お詫び No.3のタイトル中の下記の「く」(朱書)に脱字がありました。

各学校の様々な教育活動に参加して 右記のように訂正してお詫び申し上げます。

地域学校協働活動は、学校と地域が連携・協働して双方向で取り組む活動です。